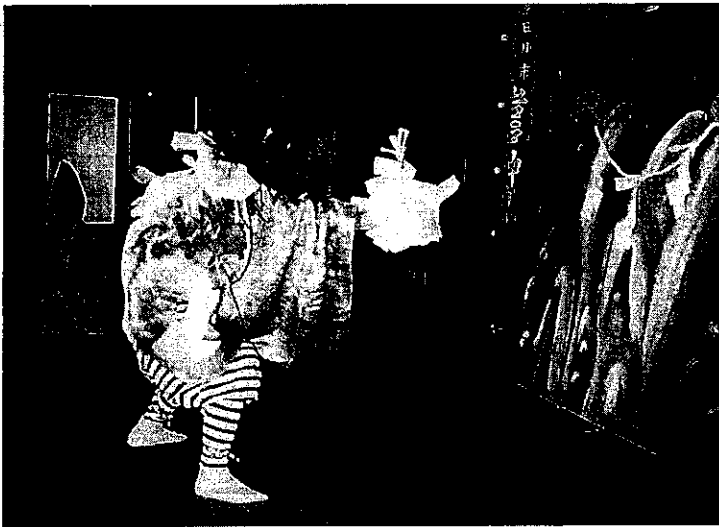


1. 春日神社・岩戸神楽 田川市

- 出演団体名 春日神社岩戸神楽保存会
- 団体所在地 田川市宮尾町6番13号 春日神社
- 団体代表者 岩戸神楽保存会会長 大原壽蔵
- 団体所在地 田川市宮尾町7番24号(会長宅)



【出演者】 15名

田辺 秀一	植山 佳陽	平野 和陽	平川 栄一
戸高 富男	山田 安則	松岡 剛	於久 栄治
佐々木吉郎	宇野 貞幸	樋口 謙治	西 英樹
花田 豊彦	大原 壽蔵	井上 計助	

当神楽は、田川郡内に現存する神楽の中でも代表的な神楽といわれ、田川市内で唯一の伝承神楽であります。

当神楽の起源は明らかではありませんが、春日神社の「宮帳」によれば、近世初期に遡ることも考えられ、約400年の昔から33番夜神楽として、天下泰平、五穀豊穡、悪疫退散などを祈願して祭りには夜を昼について奉納されたことがあります。

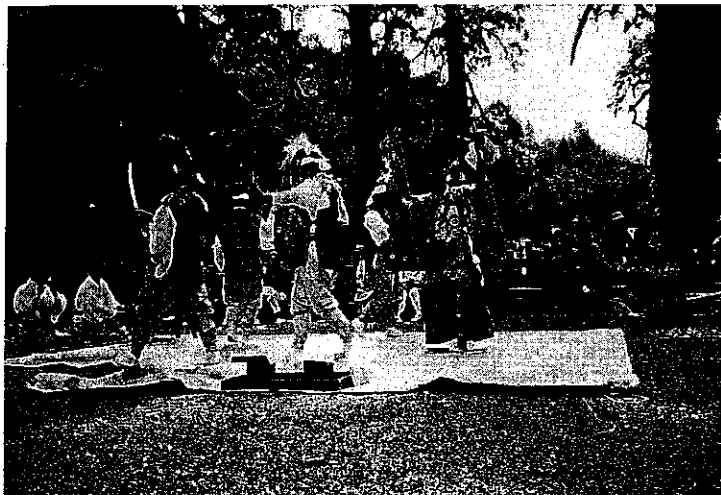
当神楽の特異な伝承形態は、豊前系の神職神楽に直方流と呼ばれた鞍手、遠賀、嘉穂、粕屋方面に流布していた筑前系の神楽が混入しているということで、豊前系とはいいながら赤幡神楽(築城町)に代表される企救、京都、築上、田川各郡の豊前神楽とは別の要素をもった神楽であると、平成3年11月15日、福岡県無形民俗文化財に指定されました。

当神楽は、高尚優雅さに加え豪気活発な舞を特徴としており、神幸祭には神輿の先祓いとして「道中神楽」を行い神幸祭の大きな演目(だしもの)となっております。又、演目のなかには子供の健やかで遅しく育ってほしいと願う親心を、神々が赤鬼、青鬼となり神楽場に幼児を抱き入れて成長を願う舞い(両鬼の舞)や、事代主命が翁の姿で登場し狩衣、袴、扇子と釣竿で滑稽な所作で鯛釣りをする(先駆の舞)など、現在12番を奉納しています。最大の演目は、日本建国神話の「岩戸開きの舞」で観る人々を現実の世界から幽玄、神秘的な古代へとさそいいれ、神楽はとじられます。

2. 寒田神楽

築城町

- 出演団体名 寒田神楽保存会
- 団体所在地 築上郡築城町寒田
- 団体代表者 富田 豊
- 団体所在地 築上郡築城町寒田



【出演者】 7名

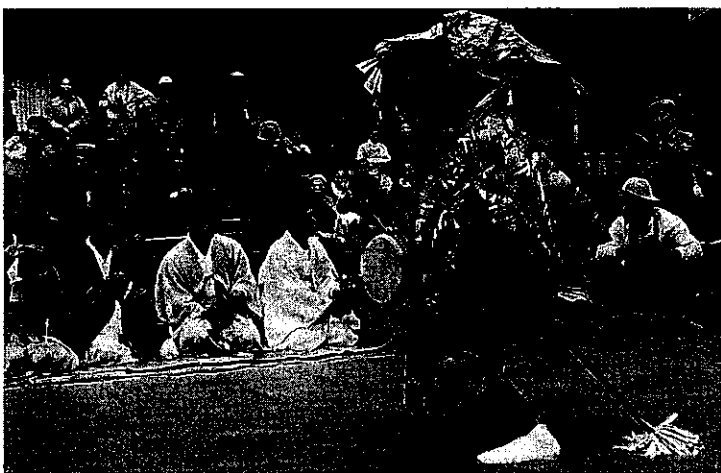
ノ切御先駆	中山 光則	幣 方	中山 一夫
舞上御先駆	中山 光雄	天字細目命	神崎 主税
太鼓	大平 博		
手拍子	富野 豊		
横笛	中山 辰巳		

寒田の氏神山霊神社に毎年5月5・6日及び10月2・3日の二回奉納される神楽で、宮柱を中心に22名の講員で構成されている。

求菩提山の北麓に位置し、修験道の影響化にあって近隣にも同系統の神楽（同町赤幡神楽・椎田町岩丸神楽・豊前市山内神楽）が残されている。この神楽の伝承はさだかでないが、寛文4年（1664）、元禄10年（1697）銘の面が残されている。

神楽の主たる部分は出雲系統のものであるが、秋の鎮火祭に湯立神楽が舞われるのがめずらしい。中央に釜をおき、猿田彦が探湯を行うこと、長い太竹の鉾先端の幣をよじのぼって切りおとすことによって、天孫降臨の先駆として認める舞があり、舞庭を使用する大がかりなものが伝えられている。又「御先駆」の猿田彦がもつ杖（玉鉾）の両先端にシデ（紙飾）をつけること等、古い信仰形態が残されていることは貴重である。はやしは大太鼓、銅拍子・笛で通例のものである。

福岡県教育委員会編『福岡県の民俗芸能』より



【御先駆】天孫降臨の時の事にて國津神尊の神とて猿田彦、天孫を御出迎えせしに、天孫の御供の神その形装の異常なるに驚き天孫に敵なす物としてこれを征伐せんとす。その間に争い起こりしが、終わり尊き神なる事明かとなり、天孫降臨の先駆を努めしものであります。

かぐら 神 樂 と 舞



平万年願踊り

第2回ふくおか県民文化祭

— 民俗芸能大会 —

日 時 平成6年10月23日(日)13時より

会 場 鞍手郡若宮町宮永 野 舞 台

福岡県立図書館



110370034

民俗芸能大会実行委員会

- 福岡県文化団体連合会
- 福岡県
- 福岡県教育委員会
- 若宮町文化連盟
- 若宮町
- 若宮町教育委員会

後 援 ■ 朝日新聞社/毎日新聞社/読売新聞西部本社/西日本新聞社/NHK福岡放送局/
NHK北九州放送局/RKB毎日放送/KBC九州朝日放送/TNCテレビ西日本/
FBS福岡放送/TVO TXN九州/FM福岡/FM九州/九州旅客鉄道株式会社